

5月の中旬に6年生が修学旅行に行ってきた。聞いたことはないけれども、小学校の思い出ベストと3には必ず入るだろう。楽しみにしている子も多い。行先は奈良京都であるが、特に行先を論争したいわけではない▼ただ、子どもに聞いてみると最も楽しみにしているのは、ホテルのようである。とても素敵なホテルに子どもたちは大喜びではあったが、実はちょっと違う。子どもたちが楽しみにしているのは友達と過ごす「時間」であり、その「空間」なのである▼「時間」と「空間」は毎日の学校生活の中にもあるが、「旅行」という非日常的な要素が加わるから子どもたちに支持されるのであろう▼極端なことを言えば、「大型バス」「ホテル」があれば、子どもたちは納得してくれるかもしれない。一方わたしたち教師は、「見学先」で学ばせたいこと、集団行動での「ルール」や「マナー」を守ること、に力を入れて事前指導に時間をかける▼保護者の願いは最もシンプルである。楽しく、無事に行って帰ってきてほしい。当日は1時間ほど帰校時刻が遅れた。その連絡も遅れた。心配をかけてしまったことをこの場でお詫びしたい。ごめんなさい▼子どもの成長には、3つの「間」が必要と言われる。「時間」「空間」「仲間」今回の修学旅行、何をおいても、全員が参加して「時間」と「空間」をともにした事実が、最大の成果である。